

自己評価結果シート【令和元年度】

1. 本園の教育目標

<p>○教育及び保育の目標や理念</p> <p>乳幼児の安定した生活の中で情緒の安定を図るよう努め、自己を十分に表現し発揮できるように配慮し、心身ともに豊かに成長することができるように努め、地域社会との交流や連携を図り、保護者に適した支援を行うと共に日々子どもたちの幸福の追求のために努力を惜しみません。</p> <p>○教育及び保育のねらいや内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びを通して、学ぶ事の楽しさを知り、一つ一つの体験の積み重ねの中で、興味関心を広げる。</li> <li>自ら考え主体的に物事に取り組み、解決していく力及び自主、自立、協力、協調の精神を育む。</li> <li>音楽、描画、身体表現、造形に親しむ中で、豊かな感性と表現力の芽生えを養う。</li> </ul>
---

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<p>教育・保育方針</p> <p>教育及び保育の目標</p>	<p>職員会議の方法について見直し、時間を効率的かつ職員全体に伝達できるようになるよう努めた。また全職員が意識して行動できるよう、「見える化」を意識して様々な情報を掲示していくようにした。</p>
<p>健康支援</p>	<p>早寝・早起き、しっかりと朝食をとることについて、各家庭と連携をし、基本的な生活習慣の維持を図ってきた。前年度に比べるとしっかりと朝食をとれている家庭が増えており、毎朝元気に登園している姿が目立つようになった。</p> <p>感染症予防については、全保連ニュースや佐世保市役所からの情報、インターネット等により情報収集を行い、玄関掲示などで情報提供を行った。</p>
<p>安全管理</p>	<p>幼児交通安全教育指導員により、交通安全指導教室を年に2回行い、交通安全についてのルールや、ルールを守ることの大切さを学んだ。パネルシアターや、映画、歩道を歩く体験など、様々な視点から交通ルールを学ぶことが出来た。</p>
<p>食育の推進</p>	<p>栄養士・保育士の食担当者を中心に、全クラスで自家栽培や畑づくりの計画を立て、種まき・苗植え・水やりの活動を積極的に実施した。また、年長・年中を中心に、芋掘り体験や田んぼでの苗植え体験、稲刈りから収穫までを体験することにより、食の大切さを体験を通して教育することが出来た。</p>
<p>子育て支援</p>	<p>毎月3～4回程度の頻度で、地域の未就園児や入園児に、教育相談や親子の集い広場を実施した。情報発信についても地域のデパートや公民館と連携して掲示や回覧板を活用し、情報発信に努めた結果、去年以上に利用申し込みを増やすことが出来た。子育ての悩み</p>

	を抱えている家庭は多く、様々な悩み相談や悩みの解決に貢献できた。
教育・保育内容	子どもの可能性について検討した結果、今年度から新しく、「ＹＹプロジェクト」を取り入れることとした。教育内容が前年度から変わったこともあり、年度初めは戸惑いがあったものの、毎月１回のＹＹプロジェクトサポートにより、年度の終わりには教育内容について理解を深めることができた。
特別支援教育	新年度の新しいクラスになった時に、教育内容も大きく変わったため、クラス内も落ち着きがない日々が続いた。特に特別な支援を必要とする子どもについては、職員間で徹底的に情報共有し、担任の先生はもとより、フォローに入る先生もその子どもに対して適切な支援が実施できるようにした。
職員の資質の向上	キャリアアップにより専門の職種を指定し、園外研修に積極的に参加してもらい、職員の資質の向上を図った。職員間の意見交換については、積極的には出てきているが、職員会議以外では保育に専念しているため、意見を交換する場が少ないように感じる。もっと意見を出し合えるような環境作りを工夫することが今後の課題であると考えている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園周辺の自然、人材、行事や公共施設などの資源を積極的に活用し、地域の行事への参加等を通して交流や社会・地域の文化や伝統行事に触れることで、豊かな経験へとつなげていった。</li> <li>・３歳児以上は９時からの教育時間を設定することで、小学校就学へ向けてリズムを整えられた。</li> <li>・英会話、サッカー教室、体操教室、ピアノ教室の他、今年度から太鼓教室の外部講師を設け、様々な分野で子ども達の可能性を引き出す手助けをすることが出来た。</li> </ul>

### 3 今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み
教育・保育内容	今年度から新しく取り組み始めた教育内容であるため、職員もまだ不慣れな点があり、今後も園内研修や部外講師によるサポートにより、知識・経験を蓄えていく必要がある。